

IV 農作物の部

解 説

この部には、「作物統計調査」及び「特定作物統計調査」の「面積調査」及び「作況調査」による作付面積、10 a 当たり収量、収穫量及び農作物の被害など、農作物の生産に関する統計を収録した。

調査の概要

1 作物統計調査及び特定作物統計調査

(1) 調査の目的

作物統計調査は、耕地及び作物の生産に関する実態を明らかにし、食料・農業・農村基本法（平成11年法律第106号）に基づく食料・農業・農村基本計画において策定された食料自給率や生産数量目標の達成に向けた各種施策の推進、主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づく需要見通し等の策定、農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく共済事業の適正な運営などの農業行政の基礎資料を整備することを目的とする。

(2) 調査方法

ア 水稻・麦類・かんしょ・豆類及び飼肥料作物

(ア) 作付面積

水稻については、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積り及び情報収集により行った。

水稻以外については、関係団体及び標本経営体に対する往復郵送調査、職員による巡回・情報収集により行った。

(イ) 収穫量

水稻については、田のある標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積り及び情報収集により行った。

水稻以外については、関係団体及び標本経営体に対する往復郵送調査並びに職員による巡回・情報収集により行った。

イ 野菜・果樹

(ア) 作付（結果樹）面積

関係団体に対する往復郵送調査並びに職員による巡回・見積り及び情報収集により行った。

(イ) 収穫量

関係団体及び標本経営体に対する往復郵送調査並びに職員による巡回・情報収集により行った。

ウ 茶・花き

茶は荒茶工場、花きは出荷金額が5,000万円以上の集出荷団体及び販売金額が2,000万円以上の個人出荷者に対する往復郵送調査並びに職員による巡回・見積り及び情報収集により行った。

エ 被害及び被害量

水稻は、被害標本筆（作況標本筆併用）の見積り、作況基準筆調査及び巡回・見積り及び情報収集により作成した。

なお、特異な被害については被害調査筆を設置し、実測調査を行い作成している。

(3) 市町村別統計の作成

市町村別統計は、「作物統計調査」を実施する上で把握した地域における標本調査及び現地見積りの結果、関係機関からの情報等をもとに都道府県計値の内訳として市町村別に作成した加工統計であり、作成する上で精度を設定しているものではない。

なお、「作物統計調査」は都道府県計値を求めるために設計されている。

(4) 調査対象県（主産県）

別表－1に掲載した品目については、作付面積等をもとに調査対象県（主産県）を設定し調査（主産県調査）を実施している。

2 定義

作付面積	水稲、麦等、は種又は植付けをしてからおおむね1年以内に収穫され、複数年にわたる収穫ができない非永年性作物が生育している面積をいう。
栽培面積	茶、さとうきび等、1度のは種又は植付けの後、数年にわたって収穫を行うことができる永年性作物が栽培されている面積（さとうきびにあっては、当年産の収穫を意図するものに加え、苗とり用、次年産の夏植えの収穫対象とするもの等を含む。）をいう。けい畔に作物を栽培している場合は、その利用部分を見積もり、栽培面積として計上した。
結果樹面積	農家が当該年産の収穫を意図して結果させた（結果させる予定のものも含む。）面積である。
摘採面積	茶の栽培面積のうち、摘採した実面積をいう。
収穫量	栽培したものを収穫、収納したもののうち、一定の基準（品質・規格）以上のものの量をいう。野菜の場合、収穫量の計量形態は出荷の形態と同一とした。
10a 当たり収量	実際に収穫された10a 当たりの収量をいう。これには、「作付面積10a 当たりの収量」と「収穫（結果樹）面積10a 当たりの収量」の二通りがあるが、「作物統計」では果樹、茶、こんにゃくいも、さとうきび等を除き前者により表示している。
作物年産区分	作付面積、収穫量の年産区分は暦年とし、収穫年次により区分する。 収穫年次は、作付年次のいかんを問わず、収穫した年（通常は収穫最盛期の属する年）をもってその年の作物の作付面積、収穫量とする。 また、作業・販売などの都合により、収穫が翌年に持ち越されても翌年扱いとはしない。 なお、野菜の年産区分は原則として、春、夏、秋、冬の4季節区分（収穫出荷時期区分）を1年産として取り扱うこととし、この基準に合わない品目については、主な作型と主たる出荷期間により年産を区分した。
野菜の季節区分	品目別に分類した年産区分を産地・作型を考慮し、主たる出荷期間により季節区分を設定した。 また、野菜の品目別年産区分・季節区分は別表-2のとおり定めている。
出荷量	収穫量から生産者の自家消費、生産物を贈与した量、収穫後の減耗等を差し引いた重量をいう（種子用、飼料用として販売したものは含まない）。 また、花きについては、収穫されたもののうち販売に供されたものの量をいい、育成中の球根及び苗類は含まない。
作付（栽培）延べ面積	水陸稲、麦類、かんしょ、雑穀、豆類、野菜、果樹、工芸農作物、飼肥料作物及びその他作物の作付（栽培）面積の合計をいう。したがって、年産区分を同一とする水稲二期作栽培や季節区分別野菜などにより、同一ほ場に2回以上作付された場合は、それぞれを作付面積とし、延べ面積とした。
耕地利用率	耕地面積に対する作付（栽培）延べ面積の割合のことをいう。
被害	ほ場において栽培を開始してから収納するまでの間に気象的、生物的、その他何らかの原因で、農産物に損傷を生じ減少した状態をいう。したがって、損傷があっても減収が認められないものは、これを被害とみなさない。
被害面積	被害が発生したほ場の面積とし、取りまとめは被害種類別に行う。被害面積は、被害種類別に面積を合計した。したがって同一ほ場に2種類以上の被害が発生した場合は重複して計上した。
被害量	農作物の栽培が開始され収納されるまでの期間に、被害により減収した量である。

別表－1
普通作物等の主産県一覧表（関東）

区 分		茨 城	栃 木	群 馬	埼 玉	千 葉	東 京	神 奈 川	山 梨	長 野	静 岡
か ん し よ		○	-	-	-	○	-	-	-	-	○
茶		○	-	-	○	-	-	-	-	-	○
飼 料 作 物	牧 草	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-
	青刈りとうもろこし	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-
	ソ ル ゴ ー	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-
特 定 作 物	小 豆	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	い ん げ ん	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ら っ か せ い	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-
	こんにゃくいも	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
果	み か ん	-	-	-	-	○	-	○	-	-	○
	り ん ご	-	-	○	-	-	-	-	○	○	-
	日 本 な し	○	○	○	○	○	○	○	-	○	-
	西 洋 な し	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
	か き	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
	び わ	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
	も も	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
	す も も	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
	お う と う	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
樹	う め	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-
	ぶ ど う	-	○	○	○	-	-	-	○	○	-
	く り	○	○	-	○	○	○	○	-	○	-
	キウイフルーツ	-	○	-	-	-	-	○	○	-	○

別表－２
品目別年産区分・季節区分一覧表

品目別	季節区分	主たる収穫・出荷期間	品目別	季節区分	主たる収穫・出荷期間
だいこん	春	本年４月～翌年３月 ４月～ ６月	ブロッコリー レタス	春 夏秋 冬	本年４月～翌年３月 ４月～ ５月
	夏	７月～ ９月			６月～ １０月
	秋冬	１０月～ ３月			１１月～ ３月
かぶ にんじん		前年９月～本年８月	ねぎ	春 夏 秋冬	本年４月～翌年３月
	春夏	４月～ ７月			４月～ ６月
	秋	８月～ １０月			７月～ ９月
	冬	１１月～ ３月			１０月～ ３月
ごぼう れんこん ばれいしょ (じゃがいも)	春植え	本年４月～翌年３月 ４月～ ８月	にら たまねぎ にんにく きゅうり	冬春 夏秋	本年１月～ １２月
	秋植え	１１月～ ３月			本年４月～翌年３月
さといも やまのいも はくさい		本年４月～翌年３月	かぼちや なす	冬春 夏秋	本年１月～ １２月
	春	４月～ ６月			前年１２月～本年１１月
	夏	７月～ ９月			１２月～ ６月
こまつな キャベツ	秋冬	１０月～ ３月	トマト	冬春 夏秋	本年１月～ １２月
	春	４月～ ６月			前年１２月～本年１１月
	夏秋	７月～ １０月			１２月～ ６月
ちんげんさい ほうれんそう ふき みつば しゅんぎく みずな セルリー アスパラガス カリフラワー	冬	１１月～ ３月	ピーマン	冬春 夏秋	本年４月～翌年３月
	春	４月～ ６月			前年１１月～本年１０月
	夏秋	７月～ １０月			１１月～ ５月
		本年１月～ １２月	スイートコーン さやいんげん さやえんどう そらまめ えだまめ しょうが いちご メロン すいか		本年１月～ １２月
	本年４月～翌年３月	本年１月～ １２月			
	本年１月～ １２月	前年９月～本年８月			
		本年１月～ １２月			本年１月～ １２月
		本年１月～ １２月			本年１月～ １２月
		本年１月～ １２月			本年４月～翌年３月
		本年１月～ １２月			前年１０月～本年９月
		本年１月～ １２月			本年１月～ １２月
		本年４月～翌年３月			本年１月～ １２月